

水の音、山の記憶

歴史と共に語り継がれてきた暮らし



「松本を出て、道を左に折れ、養老坂を下り、平瀬村の茶店に憩ひ、熊倉の橋を渉り、成相新田より穂高村に至る」と1849年につくられた「善光寺道名所図会」に描かれています。かつて犀川（豊科高家熊倉地区）には千国街道最長の熊倉橋が架けられ、交通の要所を担っていました。また、「信府統記」（1724年）によると、安曇野を拓いたと言われている伝説・犀龍小太郎が母の犀龍と出会ったのがこの熊倉付近と伝えられています。

また、安曇野のシンボルの一つ常念岳。常念岳はかつて乗鞍山（岳）と呼ばれていました。昔、毎年暮れになると常念坊という山姥が大きな徳利を持って酒屋に酒を買いに来たからという説や、八面大王を退治するため坂上田村麻呂が安曇野に遠征した際に、大王の重臣である常念坊がこの山へ逃げ込んだからなどの由来があります。

これらのように安曇野には先人から受け継いだ伝統や言い伝えが多く存在します。そして、今も私たちの心の中に存在し、暮らしと深く関わりながら安曇野の風景と生活を作り続けています。

10		6		3	1
12	11	7		4	2
13		9	8	5	

①北アルプスとひがしやまに囲まれた安曇野 犀龍小太郎伝説に思いをはせながら ②でいらばっちゃんが座った跡とされる金玉池 ③白蛇伝説が残る龍門淵の夜桜ライトアップ ④八面大王と坂上田村麻呂の合戦から名付けられた合戦尾根を登ると出会う北アルプスの女王・燕岳 ⑤変わらぬ清流をたたえる蓼川 ⑥せせらぎの小径 ⑦岩原神社のお舟祭り ⑧穂高見命の姉・大分の豊玉姫からの贈り物とされる安曇野神竹灯 ⑨でいらばっちゃん伝説が残る三郷小倉のリンゴ ⑩常念岳から蝶ヶ岳への稜線 常念坊を探して ⑪ウオータースポーツが盛んな前川 ⑫かつて八面大王の御宝田だったと言われる場所が開かれている安曇野花火 ⑬熊倉橋と熊倉の渡し跡